私たちの考えるプロジェクト持続方法。

この活動内では実行することは出来なかったが、持続的に活動を行う方法として次の2つのステップを考えている。

1 廃棄予定の服を買取り、裁断などを行い布ナプキン作成キットとして販売。

世界では、まだ着ることが出来る大量の服が捨てられている。2015年には一秒ごとにトラック一台分の衣料品が焼却、または埋立てされているというデータもある。布ナプキンを作るにあたり、少しでも環境にかける負担を減らすため、これらの服を利用して布ナプキンを作るためのキットの販売を考えた。

キットは生理の貧困に困っている人だけでなく、布ナプキンや貧困問題に関心がある先進国の人々にも販売を考えている。また、布の裁断などキットを作るための工程では、積極的に貧困課題に直面している人を雇用するすることを考えている。

2 オンラインで世界中の人と繋がる。

オンラインでもオフラインでも、話を盛り上げるには共通の話題は必要不可欠であると考えている。そこで、布ナプキンキットを購入した人のみが参加できるコミュニティを形成する。コミュニティでは購入者同士がチャット機能などを用いて世界中の購入者と繋がることができる。このことにより、購入者同士が自国の文化や社会問題などを共有する機会が設けられるため、高校生など社会問題や海外に興味がある若年層や社会人などのキット購入、コミュニティの利用が見込まれる。

「高校生から社会人まで様々なビハインドを持った人々が、生理の貧困という課題と向き合う。」

より多くの人に生理の貧困という課題を認識し、興味を持ってもらうために布ナプキンを製作するイベントを実施した。

platform ⅔: イベントに参加した感想を教えて下さい

参加者: 生理の貧困という課題について知らなかったが、このイベントきっかけに興味を持った。今、生理用品を使うことができているという現状が恵まれているからなのだと実感できた。

platform ⅔: イベント参加前後で変わったことを教えて下さい。

参加者: 生理で困っていることを身近な人や周囲の人に話し易くなった。

「メンバー全員が自分のプロジェクトを持っている忙しいチーム。スケジュールの共有やこまめな連絡が欠かせない。」

Yuika Shimamura

最近はK-popに興味がある普通の高校生。バスケ部、生徒会、SDGs委員会に所属している。唯一の自慢は、体力テストでA評価以外を取ったことがないこと。

チームでは主に総括とデザイン、立案を担当しプレゼンやパンフレット、布ナプキンのデザインや案出し、バングラデシュとの連携などを行った。

Yuina Yamamoto

ミスコン出場経験あり。定期テストでは常にクラス一位をキープし、運動もできるマルチな才能を持ったメンバー。Yuina にできないことはない。

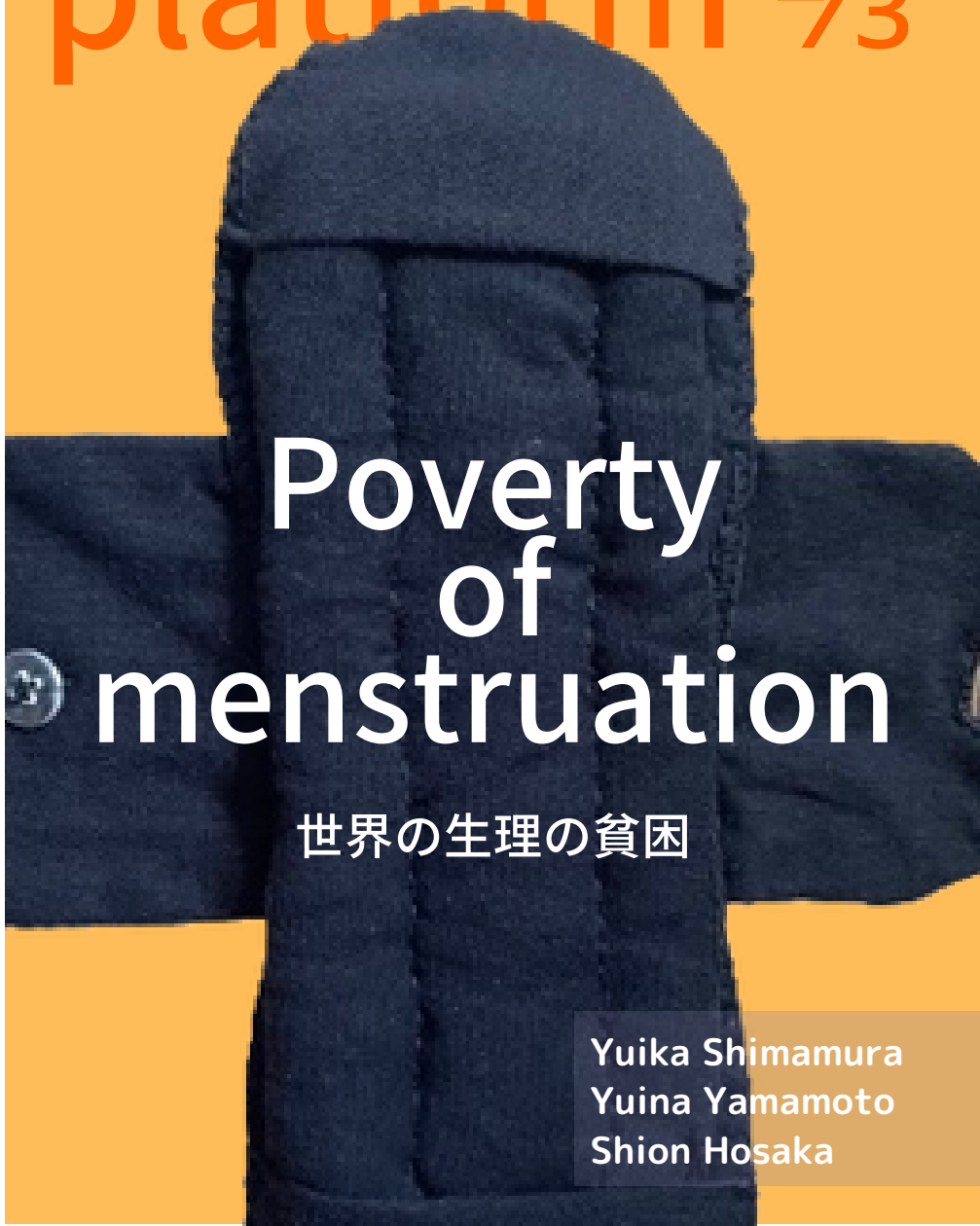
チームでは主にアンケート作成や裁縫を担当し、英語でのアンケート作成や布ナプキンの製作などを行った。

Shion Hosaka

郁文館高校に通いながら、アメリカの高校にも通うスーパー高校生。水上飛行機を用いて離島の医療課題を解決するプロジェクトを行っている。

チームでは情報収集やバングラデシュとの交流を主に担当し、プレゼン製作やバングラデシュとの英語でのオンラインミーティングを行った。

platform ⅔



Poverty of menstruation

世界の生理の貧困

Yuika Shimamura
Yuina Yamamoto
Shion Hosaka

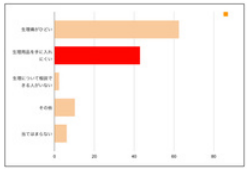
「目指すのは、生まれ持った違いによる働きにくさを感じる人がいない未来。」

メンバー全員が社会問題を解決したいという強い意志を持つ。

私たち郁文高校「platform ⅔」は、少しでも多くの社会課題解決の手助けをするため、日々活動を行っている。

そんな中訪れたセブ島のスラムエリアで“生理の貧困“という課題を目の当たりにした。経済的要因により生理用品を利用することが難しい女性たちは、生理期間中に外出することを諦めたり、経血を垂れ流したまま生活を強いられることもある。

諸々の事情からセブ島で活動することは出来なかったため、生理の貧困を課題とする国の一つ、バングラデシュで活動を行うことにした。

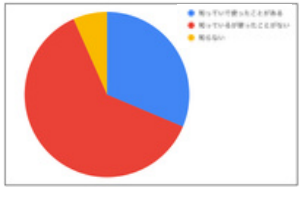


バングラデシュの女子高校生、150人を対象に行ったアンケートでは、約3割の人々が「生理用品を手に入れにくい」と感じていると答えた。

この結果から、バングラデシュで生理の貧困を解決するためのモデルを作り、内容が完全に固まった後、セブ島のスラムエリアでもプロジェクトを行うことを決めた。

課題解決のための必須アイテムは布ナプキン。

そもそも、生理用品にも多様な種類があることを知っているだろうか。使い捨てナプキンを始めとし、タンポンや月経カップなど、今ではさまざまな種類の生理用品がドアラックストアに並ぶ。その中でも私たちは布ナプキンに着目した。



右のグラフは、先ほどと同様にバングラデシュの女子高校生150人を対象に「布ナプキンを使ったことがあるか」という項目でアンケートを実施した結果だ。約3割の生徒が「知っていて使ったことがある」と回答した。このことから私たちは、バングラデシュで布ナプキンを利用する事は不可能ではないと考えた。

このプロジェクトの最終目標は、現地のみで活動できるようにすることだ。私たちが作り方を確立し、現地の人が利用し、家族や友人などを通してさまざまな人が自分で生理用品を作る。そのようにして、より多くの人が簡単に生理用品にアクセスすることができる社会を目指す。

3つの手順で課題を解決する。

私たちは課題を解決するために3つのアクションを行った。英語を用いて行う作業が多く、作業が難航することも少なくなかったが、〇〇することができた。

1 布ナプキンの製作

まず、布ナプキンを作ることから始めた。製作にあたり最も注意をしたことは、「製作ができない地域を作らない」ようにすることだ。日本で売られている布ナプキンの多くには、経血が透過することを防ぐため、防水布と呼ばれるプラスチック製の布が用いられている。日本の手芸店でさえほとんど売られていない防水布は、貧困国で容易に手に入れられるものではない。そこで、私たちは防水布を使わず保水力を上げるために、代替策を考えることにした。植物の葉や果物の皮から始まり、帆船の帆を補強するために用いられる柿渋塗料まで様々な案が出た。度重なる話し合いの結果蝋燭を用いることにした。蝋燭はバングラデシュやセブ島でも比較的手に入りやすく、現地調達が簡単な為このプロジェクトに最適であると考えた。実際に、現地で購入した蝋燭を用いて布ナプキンを製作した際も、保水力は衰えることなく利用することができた。

また、性能を試すために生理食塩水を用いて実験を行った。グラフや表はないが、一回の生理周期で出る経血量の平均20~140mlの約半分の量である80mlもの生理食塩水を3時間保持する事ができた。当初は水で実験を行うことのみ考えていたが、Shionの提案でより経血に近い生理食塩水を用いることになった。

2 パンフレットの作成

せっかく確立した布ナプキンの作り方も私たちだけが知っているのでは意味がない。そこで、より多くの人にこのプロジェクトを知り、布ナプキンを作ってもらうために、パンフレットを作成した。全編英語で作成することで、日本以外の国でも利用することができるようにした。

《platform ⅔布ナプキンの3つの特徴》

3 現地とのミーティングと製作会

最後に現地（バングラデシュ）の高校生と共に製作会を行った。製作会を行う前にアイスブレイクやプロジェクトの概要説明をし、Instagramを交換するなど確実で強固な関係づくりにも力を入れた。製作会はオンラインで2度実施し、5人の生徒とパンフレットをもとに布ナプキンを実際に製作した。バングラデシュの学校では定期的に停電が起こり、インターネットが繋がらなくなるなどのトラブルもあった。停電の主な原因は、ロシアによるウクライナ侵攻により石油が手に入りにくくなったからで、ロシアの軍事侵攻などで最も打撃を受けるのはバングラデシュなど貧困孤高だという。この活動を行うまでは知らなかったバングラデシュの貧困の実態をこの目で見て、感じることができた。

ここに全てを書き込むことは不可能であったため、直接的に関連する3つのターゲットのみに絞った。間接的に関連するターゲットも含めるとその数は10を超える。このことから、私たちの活動はSDGsの目標達成に貢献していると言うことができる。

実際にスラムエリア訪れたことで、無理矢理技術を押しつけて発展させるよりも、少しずつ国の速度に合わせて対話を重ねることが一番持続可能性が高く、貧困問題解決への最短の近道だと感じた。だからこそ新しい技術を必要とせず、現地にあるもので作ることができるこのプロジェクトは「貧困をなくそう」に貢献しているといえる。

一見関係の無いように思われるターゲットだが、日本で多く用いられる使い捨てナプキンには、一つのナプキンにつきレジ袋約４枚分のプラスチックが含まれており、処理の方法を誤ると深刻な海洋汚染につながる。

布ナプキンは再利用が可能な上、プラスチック素材を用いていないため、このターゲットの解決に役立つと考えられる。

この課題を解決したいと考えた理由の一つが、「男女間の身体的な違いによる働きやすさの違いをなくすため」である以上このターゲットを外すことはできない。

生理期間中に外出ができないと、学校や仕事を休むことになる。全ての人が生理用品に簡単にアクセスすることが出来れば、女性が学校や仕事を休むことが減ると考える。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS